

令和4年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議
議事録

日 時：令和4年8月31日（水）午前10時～12時15分

場 所：市役所多目的ルーム1・2

出席者：別紙のとおり

1 開会

2 委嘱状交付

委員を代表して委員1名に交付

3 挨拶

【市長挨拶】

どうも皆さん、おはようございます。令和4年度第1回目の八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議の開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。本日はお忙しい中、委員の皆様にはご出席を賜りまして大変ありがとうございます。また、委員の交代もございましたが、新たに委員となりました皆さんどうぞ引き続き今後ともよろしく願い申し上げます。

総合戦略の第2期は令和2年度からのスタートであります。もう3年目となりまして5か年計画の中間年となります。この間コロナコロナということで、なかなか思うように、このプロジェクトに掲げた指標達成には難しいところがあったということが正直なところでございます。特に観光面では、全く数字及ばないところもございまして、今後どのような展開をしていくか、コロナの影響はどのようになっていくのか、まだまだ不透明なところではあります。5年間の総合戦略終了の年までには、少し数字を伸ばしていければいいなというようなことで、考えている次第でございます。

一方では、八幡平市が独自で取り組んでおります起業市民プロジェクト。若い方々を中心としたスパルタキャンプ、いわゆるITの起業家支援、これが非常に順調に推移をしております。大更の駅前に起業家支援センターを整備いたしました。ほぼ満床状態となっております。次の新たなものを模索しております。これが順調にきているというように、若い方々の流入も少し見られるというように、岩手県の毎月人口推計というデータがあるんですが、4年度になってからもその状況を確認してまいりましたが、ちょっと私もびっくりしました。社会増減は毎月ずっとマイナスの状況が続いております。今回、3年度の報告でご紹介申し上げますのも、マイナスの傾向ではあるわけですが、今年の4月に転入が70人、そして転出は71人ということで、マイナス1でありました。5月もマイナス1だったんですが、6月がプラスの10、そして7月がプラスの5ということで、2か月連続でプラスに転じていた。これは合併して以来で

すね、初めてのことであると思います。ハロウインターナショナルスクールがこの間開校いたしました、その効果もまだこれから出てくる部分もありますし、この6月7月のプラスがハロウの影響もあるかもしれませんが、それ以外の要因も多分出てきているのかなというように、明るい兆しが見えてきているのではないかなというように、その数字を捉えておるところでございます。

一方で、少子化はなかなかやはり厳しい状況が続いております。一昨年の岩手県の人口異動報告年報においては、八幡平市の出生数が87人ということで初めて100人を割ったわけですが、昨年は98人ということで、少し改善をしました。今年状況をここまで見ていると90人前後かなという状況で、なかなか三桁に戻すということが非常に厳しいわけですが、今年の4月からまず、子育て支援策の一環として、出生という面から50万円を給付。これに非常に賛同していただいております、非常に効果が出ているなというように実感しているところではあります、他にも、保育所の待機児童の発生も、年度当初ではゼロだったのが年度内の中で待機児童が出てきているということも、松尾の統合保育所を開所したことによって全て解消いたしました。そういう子育て支援策の強化をいろいろな観点から進めながら、子育てに優しい、力を入れている、そういうまちであるというものを、全国的にさらに発信していきたいという風に思っているところでございます。

とはいえ、先ほど言ったように、少子化については非常に喫緊として小学校中学校児童生徒数の確保の問題とか、今年生まれた子どもたちが6年後に何人入学するかということがもう見えてきているわけですので、そういう対策もしっかりと課題を整理しながら講じていきたいという風に思っております。この総合戦略の目標の1つ1つの達成によって、少しでも人口減少に歯止めをかける、そういったようなことで取り組んでまいりたいと思っておりますので、本日も皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、進めたいという思いでありますので、よろしくご意見申し上げましてご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

【会長挨拶】

皆様方改めておはようございます。会長を務めております小野寺です。今回は第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略のちょうど中間年ということになりますけれども、市長さん先ほどお話になっていただいたように少し明るい話題が出始めていると。繰り返して申し上げますけれども、まち・ひと・しごと創生総合戦略というのは、2040年とか2060年、大体八幡平市の場合は2040年にどれくらいの人口が必要だろうか、八幡平市にどれくらい住んだらいいのだろうかという議論を行いまして、厚生労働省の社人研という社会人口問題研究所っていうところの数字がありまして、これが田舎ではどんどんどんどん若い人がいなくなって、子どもが生まれなくなって消滅集落が増えてくるよねと、そういうものをどうやって止めるかというところがこのまち・ひと・しごとのスタートでした。で、この八幡平市では、当時2万8,000人ぐらいあった人口を2040年にどうしようかという喧々諤々の議論

の中で、社人研よりは少し高めに設定して頑張ろうということで、1万8,800人というものを目標に置きました。それが今から8年ぐらい前ですかね、その2010年度のデータを基にそういう推計をして、2040年には1万8,800人にしようと。この計画はですね、市の総合計画とは違って、皆さんでその1万8,800人に向かって、1人1人が努力していく、その結果として市の人口が維持される、増えていく、ということだという風に思っております。そのために、この会議では通常の会議とは違って産学官と言労金とかいう形でいろんな方々の方が入っていただいて、いろんな立場からご意見をいただいて、それを基に回していく。繰り返して申し上げますが、2040年に1万8,800人と掲げたときに、2010年という時点で考えたわけですね。そうするとそれからどうやったら2040年に1万8,800人達成できるかということで、5年間のローリングっていいですか計画を作って回していく。第1期の5年間やってきました。それを総括をして反省をして、第2期を作って、今回している。また足りないところがあったら第3期ではそれをまた重点化して回していく。それで頑張っていて2040年に1万8,800人を超えるような人口を作っていく、そういう計画になるわけです。

佐々木市長さんが確か副市長さんの頃ですかね、第2期が始まるときに、実はその人口を減らしたらいいんじゃないかっていう話も一部にあったと聞いております。ただ、市長さんは、いやそうじゃないと、あくまでも我々は目標値で掲げて、それに向かって努力していくんだと、その努力の過程こそが大切なんだということで、このまち・ひと・しごと創生総合戦略はあるんだと。で、ようやくちょっと明るい兆しが見えてきて、ハロウィンターナショナルの開校などもあって、明るい基調が見えてきた。それからスパルタキャンプの活動があって見えてきた。それをみんなで盛り立てていきながら、なおかつ今の課題としては、後で出てきますけれども、八幡平市の出生率が高くなってないと。それをみんなでやり、子育てのまちという形で上げていくというような努力も必要だろうという風に思っています。

本日は計画そのものの議論をするというよりは、昨年度の実績、一昨年度をふまえ昨年度の実績を見て、そこの課題、また良かった部分をみんなで常に共有し合いながら、どうやったら、第2期の総合戦略の計画期間内にできるだけ目標達成していくのか。また、達成できなかったら、今申し上げたとおり第3期作りますので、その時点でどういう弾込めをしていくと計画に向かって努力できるのか、そういう重要な中間年という風に私は見えていますので、ぜひ皆さんにはですね、忌憚のない意見交換をしていただいて、八幡平市のまちが2040年に向かって豊かになっていく、そういうような計画の進捗というものを皆さんで確認し合いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(企画財政課長) ありがとうございます。それでは議事に入らせていただきます。ここからは、有識者会議設置要綱第6条第1項の規定により、会長が議長となりますので、小野寺会長に進行をお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

4 議事

(会長) はい、ありがとうございます。それではお手元の次第の4の議事で、大きく第2期の計画の評価・分析とそれからその他というところでこの第2期の評価・分析が4つの項目が挙がってしまっていて、全部一気にするとやはりなかなか大変なので、指標項目とそれから効果検証の基本目標のところをまず事務局からご説明いただいて、一旦そこで大きなところを確認する。さらにそれを基に効果検証指標項目というところで資料3ですね、そこをもう1回、これが本番になると思います。そこを確認いただいて、あとは人口分析、という形にしたいという風に思っております。大体11時半頃を目途としておりましたので、ぜひ皆さんからですね、積極的ご発言いただく、それからいただけない場合はこちらから指名する場合もありますので、よろしくお願いを申し上げます。

それでは早速議題の(1)の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略令和3年度指標評価・分析についてということで、①の指標項目一覧と②の効果検証基本目標を事務局からお願いいたします。

～事務局資料説明～

(会長) はい、ありがとうございます。今基本目標ということで資料1と資料2を見比べていただいて、資料1の方には基本目標のほかに各KPIという目標が全部で60項目あるんですけども、それがこの中の基本目標、すごく大事だと思われるのが資料2に上がっているということで、1の農業産出額は基準値、目標値を上回っていると、それから起業件数は上回っている。問題は、基本目標2のところですよ。15歳から39歳の女性人口の流出が止まらない、出生率も1.04という形ですごく低くて結果的に出生数98人ということで、市長さんのお話があった100人に届いていないと。このところをどうやって解決していくのかと。岩手県の人口ビジョンを見ても、今の大きな課題として大卒後22歳から25歳ぐらいの若い女性が岩手県を離れるという傾向が顕著です。これは第1期の人口ビジョンと見比べてもらえばわかるんですけども、第1期の時には、高校を卒業して大学受験とか就職のときにピークが来ていたんです。今はそれを上回って、大学が終わった辺りの22歳から25歳頃に、特に女性の転出がすごくなっています。これは岩手県全体に言えることなんですけども、八幡平市でもまだその傾向は続いているということで、この若い女性をどうやって、八幡平いいとこだよ、素晴らしい男性もいっぱいいるし就職先もあるよ、そういうことがちゃんとここに入ってくるということが大事なことになってくるという風に思っております。

それからあとは基本目標3のところですね、持続可能なまちづくりというところで、これについても基本的には非常に良い成果ができています。基本目標4のところは、多分これは新型コロナの影響をもろに被っているのが上の方の観光客のところ、後でまた説明があるかもしれませんが、こちら辺をどうしていくのか。で、その結果としての転入率、これ

がまだもうちょっと下回っているので上げなきゃいけない。いうことになるわけです。

一応大きいところはそんな感じで見ただけであればいいかなと思いますけれども、何かこの段階でご意見とかございましたらいただきたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいですかね。それでは次の資料3が、全ての KPI が入っているので、今の基本目標を頭に入れて、KPI の数値が具体的にどうなっているのかっていうところを見ていただいて、ここで意見交換の本番にしたいと思います。それでは事務局の方から、③ですね、効果検証の指標項目、資料3について説明をお願いいたします。

～事務局資料説明～

(会長) はい、ありがとうございます。ずっと指標についての説明なのでわかりづらいと思うんですけども、もう1回ちょっとおさらいも含めて、この資料1ってやつを左側に置いて、資料3を右側に置いて見比べる。資料2は何かというと資料1の中の基本目標が入っているという風になります。この基本目標を達成するために細かなプロジェクトがあって、そこで個別のプロジェクトを評価して行って、どうかということになるわけです。ちょっとおさらいで少しだけお話をしますと、例えば資料3のプロジェクト①の八幡平市の農のブランド強化プロジェクトってありまして、これは資料1でいけば基本目標は1番上にある農業産出額なんですね。それが目標値が140億円ということで、基準値は138億円で、これはどうだったか、全体ではAになっているということなんですけども、個々のプロジェクトで安代の主要産業であるりんどうを見ると、ひと桁低い11億5,700万円ということで、大体10%ぐらいがりんどうですよ。でもこれBだよ、野菜にいたっては10億円届かなくてCになっているよね。で、繁殖牛の方は無くて、それじゃあなぜ農業出荷額がAなのか、ここに入っていない何か作物が頑張ってくれたんだらうということになると思うので、戦略目標ではないところが頑張ったんだらうということ、後でちょっと担当の課長さんにちょっとご説明いただくといいなあと思います。後で伺います。それから次に育成センター、繁殖牛とか、認定農業者数があるということになるわけです。それから、続いて地熱エネルギー。資料1に行けば、2つ目のプロジェクトで地熱エネルギーの利用はどうかということで、指標だけが集まったのが資料1でわかりやすく、説明が資料3の2ページ目に、こうある。で、評価Bということで頑張っているけども、目標までもう一歩ということだという風になります。で、プロジェクト③がいわゆる農業、一次産業ではないどちらかという製造業とか、企業誘致、それから産学官連携、それから起業件数というところですけども、ここは基本的には、上2つはCですけども、起業件数頑張ってAになっているよね、基本目標もここら辺を取っているんで、新規産業が出始めているよねっていう風に見えるんだらうと思います。で、次に大きな2の八幡平市の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔を育むという、要するに八幡平市の若手を育てていくための部分はどうか。その前にはですね、高校の関係もありますので見ていただければいいかと思います。

私の方でちょっと着目したのが、資料3の6ページですね。やはりこの間もJRで出ていましたけど、負債3路線がどうのこうのということで、JR花輪線の大更駅というものが指標に入って、これが基準値よりも大幅に下回って200人を切ってしまった。ここら辺この後、廃線、線路の存続問題になりかねないよねと、これをどうやってみんなで盛り上げていくかっていうところがポイントになってくる。で、空き家バンクの方は頑張っていると。次の移住定住の関係は、Cが並んでいるけどもコロナでしょうがない部分もあるのかなあという見方になるだろうと。それで、その次の子育て支援の方が、資料3の8ページから並んでいますけれども、こちらは待機児童解消されて良かったねとか、それからあとはマタニティライフサポート利用者数はちょっとまだ目標まで行ってないけども、まあ一定の数字は出ているよね。それから屋内交流空間の設置はまだちょっとできてないよねとか。それから次の出会い支援はなかなか厳しいねという見方になるんだらうという風に思います。で、資料3では10ページからですけども生涯学習の関係とか、それから市民団体、それから在外日本人のお試し居住というところ、なかなかここら辺は、生涯学習はAだけれども残り2つはちょっと厳しいかなと。それからプロジェクトの⑧ですかね、市民の関係ですね。プロモーションツール、市内向けセミナーはまあまあ一応いっているね。それから映像化の方も、そこそこ数値が出ている。プロジェクト⑨の方も、まあまあコミュニティセンターへの参加者数だけれども、利用者数はちょっと減じているよね、厳しいよね、ということになりますし、それからあとは、新規に利活用された既存公共施設の数についてはまあまあかなと。それから広域連携事業数はCになっているけれども、これは事業を見直した結果だよな、という風になっています。それから続いて14ページに入ってくると、観光客おもてなし体制強化というところで、ここが八幡平市の1つの主要施策である観光関係、どうだということになると、結構コロナで大変でC、C、Cとなっていて最後の情報発信だけが何とかAになっていると。スポーツイベントも結構厳しい状況になっている。それで最後になると、多様な働き方、暮らし方のところについても、シェアオフィスと副業の関係は好調だけれども、関係人口の方ですね、ちょっと事業数がちょっとコロナの関係でなかなかできなかつたりしてCになってしまっている、という風になります。

私の方からちょっと事務局の方にですね、先ほどの農業産出額のところで、基本目標がAなのに指標項目はAがないよねっていうところを1点ご回答いただきたいのと、それからあとはもう1つは気になっている八幡平市の公共交通機関、JRの数値が出ていますけれども、それを踏まえた、要するにバスも含めて、どのように今見ているのかということをお願いをしたい。それから3つ目としては観光関係で、やはりコロナで大変だったけれども、そこら辺についての取り組み、この間観光基本計画ができたはずですので、そちらも踏まえて、事務局の方からまずご説明いただいて、それから、委員の皆様方からのご意見をいただきたいと思います。それではお願いいたします。農業からいきますか。

(農林課長) はい。最初の1点目のですね、農業産出額と個別の販売額の評価の違いといい

ますか、その点に関してです。農業産出額につきましては、農林水産省で公表しております数字を元に、岩手県全体の農業産出額からそれぞれの市町村が作付けあるいは飼養している頭数等を、分母をもとに市町村別を案分するといったような形で出す数字の合計が、農業産出額の数字となっております。一方ですね、個別のりんどうや野菜の販売につきましては、これは新しいわて農業協同組合さんの販売額の数字を記載させていただいておりますので、データの取り方が違うというようなことも1つございます。

また、令和2年令和3年の作柄等見ますと、令和2年につきましては非常に天候も良く、米花につきましてもかなり過去1番2番ぐらい概算金も良かった年でございました。一方、令和3年につきましては、米花につきましてもかなり下落したというような傾向もございまして、あとは野菜の生産につきましても、他の産地も非常に全国的に好調だった関係もございまして、当市も非常に量は出るものの、実際に市場に出したときに単価が取れないといったような傾向でございまして、量は確か100%近くまで行ったんですけど、販売は90%台に、まあ1割程度落ち込んだということで販売額が落ち込んでいるというような傾向もございまして、そういったこともございまして、それぞれの個別の農産物等につきましては別項目があるわけですが、なかなか農業産出額から大きな傾向等は把握できるものの、販売額等に結びつくような傾向は、今言ったような、私の方で把握しているものはございませんが、そういったところで。あとりんどうにつきましても、令和2年は113億ということで、非常に取引状況も良く、過去2番目の販売額となっております。一方令和3年につきましては、なかなか単価は出るものの、市場的に欲しい時期に量が揃わなかったというようなこともございまして、単価の高い時期に必要な量を供給、市場の方に出すことができなかったといったような傾向がございました。それで若干令和3年の販売は下がっているといったような傾向もございまして、そういったところで皆様にご理解いただければなと思っております。以上でございます。

(会長) はい、ありがとうございます。ちょっとここで一旦切りまして、端的に言うと、県の統計数字からいけばAになるけれども、個別のものがよくわからないと。せっかくですから、何かコメントございますか。これを聞いて何か実態と違うね、とか。

(委員) 特にそういったことはないんですけども、私も米の方なので正確にはわからないんですけども、りんどうも野菜も結局天候のなすところが大きいことになるので、販売額等をどうこうするってことは簡単にはいかない。良い年もあれば悪い年もあるっていった形にはなるんですけども、あとは生産する側の技術的な問題であったり、その生産者の数ですか、戸数がどこまで増やせるかで出せる量が変わってくるのかなといった風に思います。

(会長) お米はどうでした？令和2年は良かった？

(委員) 令和2年はまあ良かったですね。今年度が1番危機的状況に陥るんじゃないかなと思います。

(会長) ありがとうございます。こんな感じで進めていきたいと思います。ありがとうございました。農業関係はそういうことだということのようです。それでは続いて交通関係。

(まちづくり推進課長) はい。市内の公共交通と言った場合、ここに掲げておりますとおり花輪線、あとは路線バス、あとは市の方で行っておりますコミュニティバス等があります。いずれも人口減少に伴って利用者数は減っています。それに輪をかけてコロナウイルス感染症ということで、減ってきているところであります。それもありまして、先日ですか、新聞報道等あったわけなんですけど、八幡平市に限らず全国の地方路線に関して赤字ということでの報道があったわけですけども、その報道に先立ちまして、JRさんに説明をいただいたところでも、まあ早急に廃止ということではないと、状況について共有したいという旨の話をいただきました。が、いずれ減っていることはその通りなので、経営が厳しいことはその通りです。で、花輪線、ここに大更駅のことを書いておりますが、大更駅以外の駅もあるわけで、市内には12の駅があります。大更駅以外のところは本当に危機的な状況で、まあ皆さん察しが付くかと思えますけれども、これに関しては利用促進を図ると一概にお話をしたとしても、ちょっとどこの自治体もそうなんですけど、なかなか良い策が見つからないところはその通りです。その中でもJRさんと協議しながら、廃線にはならないように利用促進を図っていかなければならない。それに合わせて公共交通の在り方、利用しやすい環境を構築していかなければならないのかなと思いますので、そこに関しては、我々も考えますし、皆さんのご意見も賜ればありがたいかなと思っております。以上です。

(会長) はい、ありがとうございました。公共交通機関の非常に厳しい状況は今言った通り。まずこの点について皆さんの方から、何かご意見等ございましたらいただきたいんですけどもいかがでしょうか。まあ交通の専門家は委員の中に入っていないのでなかなか発言しづらいと思うんですけども、要するに大更駅前、今新しい駅前再開発をし、賑やかな建物を作り、それで何とか集客しようという風に市としては努力しているけど、残念ながら大更駅の利用者数が減っている。で、減じるとまた便数が減らされて、また不便になって減っていく、という悪循環に入るわけなので、これはやはり行政としての八幡平市役所だけじゃなくて、市民1人1人の問題としてそこら辺ポイントをいっぱい考えていかなきゃいけないという風に思っております。またちょっと考えていただいて、後で全体の意見交換させていただきますのでその時に、何かいいアイデアとかいい意見がありましたら、是非出していただければという風に思います。ありがとうございました。

それでは続いて観光関係をお願いしたいと思います。

(商工観光課長) はい。よろしくお願ひいたします。資料1の2ページと、資料3の14ページをご覧いただきたいと存じます。こちらの総合戦略の基準値は平成30年、30年度の数値が基準値となっておるところでございまして、元年度の数値を参考までに申し上げますと、観光客入込数につきましては、30年度190万ほどに対しまして元年度188万ほどということで、ご承知の通り元年度の冬あたりからコロナの影響を受けているということもありまして、全体数については、若干伸び悩みしてきたという現状がございまして。同様に宿泊者数につきましても、資料1の大きな4のところでもございまして、平成30年度53万3,000人ほどの基準値に対しまして元年度は51万4,000人ということで、こちらも宿泊全体については若干減っているという状況がこのコロナの影響で出始めているという現状がございました。

対して、資料3の14ページの方に参りますけれども、外国人の観光客の宿泊者数、基準値平成30年度8万1,000人ということでございまして、元年度は12万9,000人ということで、外国人に関しましては右肩上がりに上がっているということで。ちなみにでございまして、外国人の統計ずっと取っておりますけれども、平成28年度の段階では3万5,000人ほどでございました。まあ元々母数が少ないということもございましたが、元年度までの4年間でおよそ4倍近い外国人の観光客の流入があるということで、本市にとってこの外国人の観光客の増加というのは非常に欠かせない方々、ターゲット市場であるということが、こういうことでも数値としても表れているものという風に認識をしておるところでございまして。ですが、このコロナの影響でパタッと止まってしまったということが非常に打撃が大きかったということで、外国人の宿泊者数については2年度282、3年度108とありますが、おそらく在日の外国人の方々も、この統計の数値の中で含まれているものという風に推察をしておるところでございまして。各宿泊事業者の方々からご報告を受けた累計値となっておりますので、そういった形での数値かなという風に思っております。そういう流れの中で14ページの最下段外国人材の活用者数ということでございまして、現在、株式会社八幡平DMOに所属の2名の外国人材、そして当課商工観光課にアラスカ出身の国際交流員1名、この3人体制に加えまして、台湾市場…先ほど元年度13万人ほどということの外国人観光客も申し上げましたが、そのうち4万5,000人ほどが台湾客ということで、非常に大きな市場となっております。で、この台湾の渡航再開が1つのキーになっていると思っておりますので、現地の台湾人ブロガーの方々をアンバサダーということでお願いをして、定期的にSNSでの情報発信を、今始めているということで、渡航再開の折にはこの方々のファンも含めて連れてきていただくというような仕組みを今入れるという状況でございまして。

14ページの上段が教育旅行関係でございまして、ご承知の通り、少子化の流れを受けまして、先ほどの国内客の宿泊数と外国人の宿泊数の伸びの比率を考えますと、観光客自体も国内数というのはもうパイが減っているという状況でございまして、微増を目指してこのパイを維持しつつ、外国人を伸ばす政策をとっていきたいということと、教育旅行に関しま

してはどうしても学校数が減少しているということ、そしてご承知の通り野球ラグビーサッカーと集団スポーツが混成チームになったりしている中で、なかなかスポーツ合宿としてどんと1校まとめて来るといことも今厳しい状況にございます。ただ、このコロナの影響の中で今、近隣修学旅行の見直しと申しますか、近隣での見直し、良さの発見ということ、逆にこれまで来なかったエリアからの修学旅行ということも、ここ2、3年で実施されておりますので、そちらを新たなターゲットとして狙っていければということを考えておるところでございます。以上でございます。

(会長) はい、ありがとうございます。懇切丁寧な説明をいただきました。今ちょっと私の方から勝手に3点について問題意識を持って事務局に振ったわけですが、皆さんの方からご意見ございましたらぜひ、挙手をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。先ほど農業につきましてはいただきましたけれど、観光関係でも市の新しい観光の計画ができて、そこにはもう金額を入れていくっていう。これまでどちらかという観光関係は来る人数だけを押さえていて、金額がどうかということは結局二の次というなかなか抑えきれなかったということで、儲かる観光というところに、八幡平市はいち早くシフトしていくという形で動いていますが。

それではどうでしょうかね。皆さんから意見がないようだ、まずこちらからもう何でもいいです。そちらの方から、今気づいたところでも結構ですし、疑問でも結構です。ご発言をいただいて、それで皆さんにまずご発言いただいてからですね、また少し議論したいと思います。じゃあよろしく申し上げます。

(委員) 全体的に気付いたこととしては、この2の女性問題なんですけれども。15歳から39歳の女性の中で、今まで八幡平市にいた方々が、大学卒業した後でどういった企業に就職されているか、そういった企業というのは八幡平市にはないのか、そういったところの魅力っていうんですかね、女性が安心して仕事できる場所の提供と申しますか、そういったところを進めて行くにはどうしたらいいのかというところが非常に疑問に思うところがございます。そこは私建設業やっているので、女性の方々がちょっと建設業はまだまだ仕事しづらいというイメージがありますが、この辺についても女性が活躍するためにどのようにしていけばいいかというのは今盛んに問題になっているところです。なので、減っていつていうよりは、どういったところに流れて行っているのか、地元の企業はどういった形でそういう人たちを受け入れるという風にするのかというのを、今後ちょっと掘り下げて知っていききたいなど、見ていきたいところかなと思いました。

(会長) ありがとうございます。後で一括して関係する質問を含めて整理して、事務局の方からご回答いただきますけど、女性の地元での活躍についてどのように捉えているのか、というところです。では次お願いいたします。

(委員) はい。私は観光業を業としているんですが、先ほど商工観光課長からお話がありました、特に観光業というのは、令和2年、3年とコロナの影響をダイレクトに受けた事業者が多数おまして、宿泊、飲食、まあそういった多大なダメージというのは今も引き続いているところがございます。先だって先週になりますが、観光振興審議会である程度総合計画を出して、これを順次具体的に遂行していくということで、当然こういったまちづくりとかそういったところにもリンクしていくはずでしたので、まずそれを1つずつ着実に進めていければなと思っております。あと総合的に思ったことなんですが、やっぱり人が減っているというのが1番の問題というところ、それは当然その駅の利用とかそういったところにも結び付いていきますし、その女性の就労とかそういったものにも関係してくると思います。やっぱり1つは、職場がなければ生活が成り立たないということにもなりますので、そういった就労人口ですね、ちゃんと増やすような施策なりを具体的に詰めていければというのが感想でございました。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。女性の活躍、まあ観光の方はこの間計画が出来たけれども、人が減っている、特に就労人口に問題意識を持ったと。では次お願いいたします。

(委員) 今農業の関係で言うと、離農者が増えていくっていった中で、今後どうやって今ある農地を減っていく人数形態で守っていくのか考えたときに、当然経営体数を減らさない努力も必要なんですけれども、現状で頑張っている農家への支援も充実していただきたいと思えます。それと、あとどうしても抑えられない人口減少というか農業者人口の減少に対しての、どうやってこの農地を守っていくっていった新たなる方法というか、栽培時期を長くできるような方法だったりっていうのを、今いろいろ…冬に種を蒔くといったような研究とかも進んでいるので、そういったことにも、市としてもちょっと乗っかっていければなあと。私今ちょっとその初冬水稲という冬に蒔くことを、岩手大学の研究チームと組んでプロジェクトチームでやっているんですけれども、それにJAだったり普及省だったり、市だったり一緒に勉強して参加していけたら、もうちょっと、面積を抑えるというか、減らさないような、新たなる方法だったりっていうのを考えていけるのかなと思っております。

(会長) はい、ありがとうございます。農業振興策、農業者が減っている、それをどうするかという問題と、支援策、それから農業術、特に湛水直播栽培というんですかね、その初冬蒔くっていうやつについて、ご発言いただきました。ありがとうございます。

それでは次の方お願いいたします。

(委員) すいません、全然考えがまとまっていないんですけれども。岩手県って広いですよ。なので、交通機関っていうのはほぼほぼ車になると思うんですね。で、車、もうみなさ

ん免許持っていらっしやると思うんですけど、免許持っていない方メインで、例えば免許返納、となると高齢者、という形になると思うんですけど、高齢者の方向けの何か移動手段、例えばタクシーとバスの合の子みたいな形で…すみませんこれ適当に言っているのだけれども、バスって路線が決まっていますよね。なので、その路線外のところを走るタクシーのようなバス。そうすると、経費とかもいろいろかかると思うんですけども、システム的には、例えば何地区か決めるとして、そこの人たちが利用できるような形の大型バスとか大型自動車の方を、1時間に1回走らせる。でも、例えば、料金というのは決まってきたので、それを分割してやる、例えば、A地区の人4人とかいるのであれば、その決まった料金を割る4でやって、だいたいそのぐらいの料金になりますとかわかるようなシステムがあれば、例えば、どんどん出来るんじゃないかなと。高齢者だけじゃなく、中高生とかそういった部分でも使えるような何かあればいいかなと思いますし、あと女性の流出の問題っていうのもあったと思うんですけども、流出するのって大体もう高校卒業して大学行くとか、就職するとかっていう形ですよ。その人たちが戻ってこられる環境っていうのがあれば…例えば、全国に散らばるわけですよ、女性の人たち。で、その人たちが、友達なりなんなりが、八幡平市良いところだよっていうので広げてくれる機会だと思えば、逆にいいんじゃないかなと。そこで、例えば、八幡平市の魅力とか、八幡平市に旅行に来るとかをバックの部分で考えていくと、何かしら八幡平市以外の、全国から、日本全国から八幡平市に来られるような環境を作っていくだけでいいかなと思ったりするんですけども。すみません適当にしゃべりました。

(会長) はい、ありがとうございます。1つは公共交通の問題でバスタクシー的なものの開発の方を。それから女性が戻ってくる環境、それをどうやって作っていくのかというような問題です。ありがとうございます。それでは次お願いいたします。

(委員) はい。まずこの基本目標の2のところについて、15から39歳女性人口、出生数、それから合計特殊出生率の各数値が書いていますんですけども、これが現状と。引き続き各プロジェクトを推進し目標達成を目指すというところなので、じゃあこうなった要因について、市さんでどういう分析をしているのかっていうあたり、分析、要因分析がないとこのプロジェクトが施策として正しいのかどうかっていうところがわからないと思うので…といいつつこれ非常に難しいので、例えば合計特殊出生率がここまで下がったっていうのが、例えばコロナでちょっと結婚が減っていて、一時的なもので、黙っていてもコロナが収束するといくらかは上がるんだけれどももうちょっと頑張らなきゃいけないっていう話なのか。それともコロナの影響とかがないものなのかっていうところを、この数値について八幡平市さんとしてどういう分析をいらっしやるのか、それを踏まえた対策というのが必要なんだろうなというところで。これについては県も非常に難しいところなので、同じだと思うんですけども、そのあたりの対策を聞きたいかなというところと、若い女性の流出に

ついても、先ほど今高校生より大学生、22歳とかっていう話もありましたけれども、ただ、県内の大学の卒業生だと、男性より女性の方が地元就職率は高いのに、なんでこんなに女性の社会減が多んだっていうあたり。じゃあ誰がどの段階で出て行っているかっていうのがちゃんとわからないと手を打つのが難しいなというのを非常に思っているところで。大学卒業した時の、県内の大学にいる男性と女性だと、女性の方が地元就職率高いんです。だけど社会減、女性の方が多たっていうのは、例えば男の人だと長男だと大学首都圏から帰ってくる人が多いのかとか、そのあたりの分析を、本来県でもちゃんとやらなきゃいけないんですけど、そのあたりやらなきゃいけないんだろうなということと、あとはさっきもお話がありましたけれども、一旦出てしまう、出たい人に行かないでって言うのは止められないんですけども、ただ、帰って来たいタイミングっていうのは結婚したり子育てでやっぱり親元で育てたいとか、いろいろあった時に、戻りたいと思った時に、どこにアクセスすれば戻ってきやすいか、情報が、仕事の情報とかあるかっていうところも、戻ってきたいと思うような情報を常に発信して、あと戻ってくるときにどこにアクセスすればいいかっていうのがわかっていうのは非常に大事なんだろうなと思うので、県でも来年度の施策等検討している時に、例えば就職、成人式とかで集まった子に、戻ってきたいんだったらこういうツールもあるよとか、常にそういうところで、一旦八幡平市を出た人となんとかして繋がりを維持するっていうのがあればいいのかな、というような感想を持ったところです。あと観光については、今県外とか遠方からの修学旅行は減っているけれども近隣が増えていてあまり総数としては減っていないということで、それ全県的なことですが、じゃあコロナが収束した時に、近隣から来ていた人がやっぱりコロナ収まったから北海道に行こうみたいにならないように、何か付加価値をつけた修学旅行で引き続き近隣の人にも来て欲しいなというのは思っているところで。県振興局の方でも、修学旅行とかについてはSDGsをキーワードにした教育旅行とか、この前説明会とかも行って、そういうところで、引き続き近隣の人に来てもらいつつ、外の人、首都圏とかの人からもこっちの地方の方に教育旅行に来ていただきたいと思っているので、そちらについては一緒になってやっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

(会長) はい。ありがとうございます。女性の特に就職の問題、出生率のお話ですね。では次、お願いいたします。

(委員) 本日、平舘高校の副校長先生もお見えですけれども、今年の春の就職24人、ほぼ県内に就職されたと。非常に良い取り組みをなさっているかと思えます。一応、情報ですけれども、今年の春県内の高校生の県内への就職率というのが74.1%、平成8年からデータを取り始めたんですけれども、過去最高の県内就職率という風になっております。労働局、ハローワーク、それと岩手県の方と雇用対策協議会で県内への就職率80何%というかなり高い目標設定で、そこまでには及んでないんですけれども年々、地元への就職希望者が増え

ている。率だけ見ると増えているんですが、少子化で卒業生も減っている、進学率が上がっているということで、実数で見ると減っているんですね。ちなみに、今年度盛岡のハローワークで 1,700 人分求人を受けたんですけども、実際に盛岡ハローワーク管内で就職した高校生というのが 500 名ちょっと、3 割ほどしか人材を確保できなかったという状況となっております。この間、振興局の方とも話したんですけども、これからは、進学する生徒に対して何か高校生の内からキャリア教育というものができないかなというところで、まだ話している段階であります。すいません、ちょっと 1 つ、今日お聞きしたいのが、冒頭でもありましたハロウインターナショナルスクールの誘致によって、見込まれる効果という部分について、お話をお聞きできればなと思っております。以上です。

(会長) はい。ありがとうございます。色んな情報をご提供いただきありがとうございます。ハロウインターナショナルスクールについては、後でもし事務局の方からお答えできるのならお答えいただければなと思っております。それでは、次お願いいたします。

(委員) よろしく申し上げます。まず、平館高校のスクールポリシーは、将来的に八幡平市を支える人材となる人物を育成するということを掲げながらやっているわけですが、この会議に初めて参加させていただきまして、あらゆる分野の底上げを図るときに、これから市を支えていく現在の高校生の役割は大きいのだなと実感させられました。現在でも教育振興に様々なご支援をいただいております。あと、商工会の皆様、そして地域の方、八幡平 DMO の方々等にも授業をコーディネートしていただいております。魅力的な授業を展開するように学校の方でも頑張っているわけですが、もう少し魅力化を支援していくために、やはりどうしても教育的な費用等が必要になってくる場面もあります。ですので、生徒にもう少し、八幡平市そして平館高校に愛着を持って、そして卒業して八幡平市のために頑張りたいなと思えるような教育を私たちも頑張っていかなければならないなと思っておりますので、引き続き様々なサポートをしていただきたいなと思ったところです。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。地元愛にあふれた平館高校のスクールポリシー、ありがとうございます。それでは、次お願いいたします。

(委員) はい。まず、農業関係なんですけれども、こうやって改めてですね、りんどうの販売額が野菜の販売額を上回っているという数値が出て、凄いんだなと思いました。付加価値の高いものを作っているということで、育てなきゃいけないというものなので、要は天候とかそういったものの影響、需給バランスなんか考えても難しい面があるんだと思うんですが、せっかく良い物をお作りになっているということで、例えば、これを 10 年後 15 億にする、20 億にするという計画があっても面白いじゃないかと、勝手ながら思ったところがございます。あと、観光面につきましては、ハロウ校が開校したということで、色ん

なチャンスもあるんだろうと思います。これからコロナが明ければ、色んなところから人がやって来ると思うんですけども、それを迎入れる側の人づくりとか、やっぱりソフト面が重要なんじゃないかなと思ってですね。そういった接客ですとか質の向上を後押しする取り組みもやっていかなければいけないんじゃないかと思います。あと、平舘高校の先生がいらっしゃるんですけども、今八幡平DMOさんの話もありましたが、授業とかを通じてですね、やってらっしゃるようなんですけども、観光学科を設けるなんていうのは…かなりハードルが高いとは思うんですけども、そういったもので、就職していただくとか目指すためには、ハロウ校の方々、岩手県も八幡平市も連携協定を結ばれたということでございますので、そういったの方々、先生とか含めてですね、色んな交流を図りながらどういったら良いものが出来上がるのかとか、そういったやり取りをしていただければなと思います。あと、人づくりという点では、例えば、企業内の留学といいますか、県外・県内問わず宿泊施設、人的な交流とかそういったものやっていくのも質の向上に繋がられる1つの策かなと思います。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。りんどうの販売目標、ハロウ校との連携、それから人材の交流ですね。それでは、次お願いします。

(委員) はい、よろしくお願いします。せっかく資料をこんなにいっぱい作っていただいたので、資料に基づいて色々意見させていただきたいです。資料1の③、資料3に関しては3ページになりますか、大学連携による市内企業との連携。実は、私たち銀行なものですから、色んな取引先行きますけど、大学と連携している先もありますし、岩手県、八幡平市、工業技術センター、産業振興センター、色んな意味で無形資産、特許とですね、知財に着目した技術的なものを取り組まれている企業さんいっぱいいらっしゃるんで、多分大学連携だけだとこれくらいだと思うんですけど、結構やられている企業さんいっぱいいらっしゃるんで、岩手銀行さん信金さん含めて、金融機関とすると知財の連携は結構やっているんで、もうちょっと幅広でとらえるとアピールポイントになるんじゃないかと思います。盛岡はそんなに無形資産を取り上げる企業さんって少なくて、不動産業、サービス業がやっぱり圧倒的に多いんで、実は当市のポイントとしてあげられるではないかと思っておりました。

あとは、2点目が1番ポイントなんですけど、プロジェクト④の移住・お試し居住のところです、資料3だと7ページ。これすごく難しいですし、大変だと思います。大変だと思いますと私が言うのも失礼なんですけども、ただこれ正直、6ページ目にですね、空き家バンクのマッチング数が一応、なんとなく形になられて、いわゆる空き家の所有者といわゆるマッチングされた件数が載っていて、すごく良いことだと思うんですよ。あとは7ページにあるお試し居住の参加者数とか、コロナの影響とかもちろんあると思うんで、それはそうだとは思いますが、多分全体の施策の中で、八幡平市さんってこんな良いこといっぱいやっているんで、居住とか交流、居住人口を増やすとか、交流人口を増やすとか、学説的な議論

はあると思うんですけど。今取り組まれている八幡平市さんの魅力を、もちろん発信されているとは思いますが、もう少し集約してもいいんじゃないかなと。移住したい人、お試したい人、よく全国で特典、住居を提供しますとかやってらっしゃいますけど、そういうことじゃなくてですね、八幡平市さんが今やっている魅力を、どこに行けば、先ほどもどなたかおっしゃっていましたが、どこに行くとその情報が得られるのかなということなのかと、思っていましたので、それは是非お願いできればなど。

3点目、さっき花輪線のお話が出ていましたけど、多分ここにいる皆さん認識あると思いますが、うちの会社もそうなんですけど、多分、全体の5%くらいかな、八幡平市出身の方、実はすごくいっぱいいらっしゃるんですよ。たまたま今、うちの平館で働いている方というのが、それでも5人います。でも、実は盛岡だけじゃなくて、この出身の方が通勤したり、通学したりされているじゃないですか。多分、好摩から通われている方もかなり多いんじゃないかなと思うんですよ。大更から乗っていけるんでしょうけど。好摩に行って帰っても好摩からってというのが、調べたわけじゃないですけど、うちの会社でも盛岡に通勤・通学している人多いんですよ、好摩に車で行って、好摩から。それで、皆さん、頷いていらっしゃるんで、そうなんだと思うんですけど。大更の乗車人員を増やしたいのであれば、例えば車を停められて…というのが良いんでしょうけど、それが意味があるかどうか分からないんで、そこはすいません、単純に思いつきで。

それで最後、資料1の2ページ目3の⑩、資料3だと13ページになります。広域連携強化プロジェクトって、各市町村さん連携ってやられてるじゃないですか。私これ、正直結構、八幡平市さんやられていると思いますし、後は連携が件数が減ったからと言って、AからCになっていますけど、逆にこれってよくよく読むと、メリット・デメリットで採用した、やめたってことなんで、これもっと良いものにしましたっていうのはCじゃないんじゃないのかなと思っておりまして。ほかの市町村さんも悩んでいらして、ここへの評価、同じ話を聞くことがあって、この辺はもうちょっと、すごい良く取り組んでらっしゃると思うんで、Cじゃなくて、少しアピールしてより効率性・合理性を高めまして良ろしいんじゃないかという風に思いました。色々言いました。よろしく願います。

(会長) はい、ありがとうございます。4点いただきました。大学だけではなく金融機関との連携でもっとアピールできるよね、それから後はお試し居住の件で、国の第2期まち・ひと・しごとでいうと、関係人口から定住人口へと、そういうところの話。それから花輪線ね、そうなんだよね、みんな好摩行くんですよ。それからあとは広域連携でちょっと指標として合わないんじゃないかという話。ありがとうございます。それじゃ、次よろしく願います。

(委員) はい、よろしく願います。私、金融機関のものなんですけど、金融機関の立場からというよりも個人的な思いをちょっとお話させていただければと思います。私も去

年の4月から、盛岡からこちらの方に転勤で来ておりますけれども、八幡平市の方に勤務させていただいて、かなりこう、八幡平市の良さっていうのを日に日に感じております。すごく、いい場所だなという風に私も思っているんですけども、まだまだ知りたいところがいっぱいあるので、どういった場所がPRできるかというところに1番、知らない人たちからすると、行きやすい場所というか、こういったところがあれば観光も含めてですけども、あそこに行けばこういうのが知れるとかっていうのは、多方面からわかるようにしていただければ非常に集まりやすい環境になるのかなという風に思います。

あと先ほど修学旅行の話もありましたけども、うちの娘も中学3年生でこの間修学旅行に行ってきたんですけども、やはり県外には出られなくて、遠野、釜石、あっちの方に行ってきたんですね。なんでそっちなのかなと言えば沿岸の絡みもあるとは思んですけども、私からすればやっぱり私がこちらに勤務している関係で、どんどんこちらの良さをアピールできれば、子どもたちのその思い出っていうのは大人になっても繋がっていくものだと思いますので、そういった活動をしてもらうと、学校で決めることなのかはちょっとわかりませんが、そういった関係が、後々大人になってからの就職だったり教育だったりという風に繋がっていくものもあるのかなという風に感じております。

あとは私が個人的に昔、野球やっていたんですけども、子どもも野球やっていた関係もありまして、やはり各チームもそうですけれども、場所取りにかなり苦労しているというところがあって。八幡平市は施設もありますし、グラウンドもかなりあるとは思んですけども、大きな施設というかですね、お金も当然かかることなんですけども、県外を見ると秋田とか青森とかあちらの方はドーム球場があって、冬でも夏でも、雨でも動ける環境というのがやっぱりあるので、そこにこういった大会とか何かそういうイベントをやると、非常にまあ、先ほどの話じゃないですけど、そういうイベントで人が集まる環境になるのではないかなと思いました。

あと最後1点にですけども、これだけいろいろ注目されている八幡平市でありますけども、バイパスもできて道路の交通量も増えていると思うんですけども、これは私が勝手な個人的な意見ですけども、例えば八幡平市に入った時から、例えば花がですね、りんどうだとか、そういう、こう、わあ、すごいなっていう思いがあると、あ、ここからもう八幡平市が開けていくというか、そういうイメージが大きいのではないかなと思います。私もいろいろ各地区を歩いたりすると花とかで印象がパッと変わるところがやっぱりありますので、りんどうとかを中心にやられていると思いますのでそういった、見られる環境ですか、そのパッと八幡平市とりんどうが繋がる感じの道路整備というか、していただくと、何かまたイメージとか変わるのかなという風に思いました。はい、以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。わかりやすい情報、これいかに得られるようになるか。それから、教育旅行もちょっと県内PRしたほうがいいんじゃないか、それからあとはちょっと金かかるんであれですけど、屋内の競技場ですね、球場、それからあとはwelcome

ようこそ八幡平市のところに、字面だけじゃなくて、何かちょっと花があつてりんどうがあると八幡平市らしい入り口ができるよね、という話をいただきました。ありがとうございます。それでは次、お願いいたします。

(委員) はい。社会福祉協議会で今感じていることなんですけれども、いずれにしてもコロナで活動が停滞しているっていう、非常に危機感があります。この評価は指標を設定していますので、指標の取り方によってどのような評価もできますので、先ほどご発言もあつたんですが、どういう風な取り組みを行っているのかっていうのが大切なことではないのかなっていう風に思っています。社会福祉協議会では様々なイベントをやってきましたけれども、令和2年、3年と様々なイベントを自粛しているのが現状ですが、今年度に入つての1つの合言葉なんですけど、イベントを縮小しても、とにかく継続しよう。継続して、様々な情報ないしは、参加されている、ま、高齢者がほとんどなんですけどそういう方々からのニーズを把握して、それを改善の方向に結びつけていくと。で、活性化、活気のある地域をいかに持続できるかっていうのを、今年のテーマにしたいなという風に思っております。

2点目はりんどうの関係なんですけど、オリンピックで、ルワンダのりんどうでかなり新聞等で有名になったんですけど、オリンピックが終わって、もうシーズン…となっております。別にルワンダに行ってどうのこうのではないんですけど、ルワンダとの海外展開を、ニュース性のあるものを、日報さんもおりますので、そういうのを新聞等で取り上げていただくことによって、ルワンダでの国際市場でも様々な活路が見出してくるんじゃないかなっていう…これ数字に基づかない勝手な想像なんですけれども、そういうのをちょっと感じたところです。

それから3点目は、実は市内の企業で中国に工場を持っている企業がございます。その社長さんが前においでになった時に、その現地の従業員を日本で再教育したいと。で、専門的な知識を身につけてまた本国の工場に行つて、さらに頑張ってもらつてという風にしたっていうお話があつたんですけど、ただそこには、入管の問題とか、それから外国人が来た場合寮みたいなのに関閉じ込めて監視役が必要だとかっていう、それがなかなか面倒なんだよなど。実は今日ある新聞に、外国人の就業者の数を見直すという政府の考えの記事が上がつていたんですけど、それをさらに進化させまして、そういう風な外国人の方が日本に来て、かつ八幡平市の様々な観光施設を自然に見学するなりすることによって、あえてインバウンドという風に決めつけしないで、そういう風なその活路と言いますか、そういう風な1つの観光振興の一助になるのではないかなという風に感じたところです。

それから4点目なんですけど、修学旅行なんですけれども、うちの孫、コロナの影響で県内に1泊2日になったということでこれはやむを得ないかなという風に思っておりますけれども、過去に小規模校対小規模校の小学校同士の交流で、市からは函館に、教育長さんをお願いして、函館との交流を進めた経緯がございます。そのような小規模校同士の交流もまた子どもたちのその活力と言いますか、また広い視野を持ってもらえるのかなっていうとこ

ろで、またそのような活動展開も検討していただければなっている風に思っております。以上でございます。

(会長) はい、ありがとうございました。4点いただきました。1つは指標、単なる数値指標ではなくて、その内容をちゃんと評価すべきだろうと。2つ目は、りんどう、ルワンダの関係。情報最近出てないよ、もっと日報さんに働きかけて出すようにやってくれという話。それから3つ目が、外国人研修生と言った方がいいですかね、企業研修の話を観光戦略に進めていったらどうか。それから4つ目が、修学旅行で小規模校同士の交流をというご提案。ありがとうございました。それでは次お願いいたします。

(委員) 私昨年4月から八幡平市の方に来まして、やっぱりコロナ、コロナというのがどうしてもついて回るといいますか、観光客が減っているのはその通りですし、イベントの中止というのも多かったんですけども、本年度に入ってから少しずつ観光イベントが、みなさん感染対策を徹底しながらウィズコロナという形で、少しずつ、3年ぶり、2年ぶりという形で復活してきているので、取材も自ずと増えてきているという風を感じております。今後インバウンドも少しずつ増えてくる兆しも見えておりますし、ハロウ校が先日開校したということで、いい意味で、ハロウ校を利用するといえますか、いろんな効果が生まれてくれればいいのかなと思っております。で、まあ人口が増えるというのはその通りですし、ハロウ校を見に行く観光客の方とか視察の方も確実に増えてくると思いますし、あと、地域との交流とか、児童生徒を通じた交流と言いますか、そういうのも増えていくかなと思います。先ほど花輪線の話もありましたけれども、ハロウ校は安比高原駅の近くにあるということで、児童生徒の方とか保護者の方とか、利用することも増えてくるかもしれないと。その、安比の人をどれだけ他の地域に流れさせることができるかというか、呼び込むことができるかっていうところが重要なかなと思っております。なので、花輪線もそうですし、バスとかで、安比から他の地域と言いますか、そういう流れを作るっていうことが大事なかなと思います。特に、今大更では新しい駅前のみちづくりが始まっていますし、八幡平温泉郷の方も、今インバウンドを呼び込むという活動を進めていますし、安代はりんどうも生産盛んということで。今静流閣さんとかが中心になって荒屋新町の辺りで色々活動もしているので、各地域の魅力と言いますか、それぞれ違った魅力があると思うんですけども、そういったものをうまく発信して、安比に来る人、安比の人を、他の地域の方に流れさせるっていうことが大切になってくるのかなとは今感じているところです。

あと、この数字を見た時にやっぱり感じたのは、平舘高校さんの、2年連続で県内就職100パーセントっていうのはすごく素晴らしい数字だなと思っております。私も平高さん何度も取材させていただいているんですけど、地元と共にといいますか、地域の方が講師に入ったりとかコーディネーターとして入って、地元への愛着が湧くような授業をされていらっしゃるっていうのをすごく感じます。あと、地元の企業さんの企業説明会と言いますか

見学会というのも行っておりますし、そういった意味で、県内ってなっていますけども、おそらく八幡平市というか八幡平市近郊の就職の方もやっぱり多いのだろうなと思っておりますので、やっぱりその進学する子たちをいかに、ま、進学する時はどうしても外に出してしまうのは仕方ないことなので、じゃあどうすれば戻ってきたいと思えるかっていう部分を、例えば高校生にアンケートじゃないですけど聞いてみるとか、特に今女性が減っているっていうのが今出ている問題だと思うので、例えば女性の方に聞いてみるとか、さっき成人式って話ありましたけども、成人式で来ている子どもたちにアンケートをとってみるとか…どうすれば戻ってきたいのか、何があれば戻ってくるのかっていう、ニーズがなんなのかっていうところを、改めて調査してみてもいいんじゃないかなと思います。以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。ハロウ校のお話、それからあとは、地域の魅力、それをどう発信してくれるか。それから、平舘高校の件、お話いただきましてありがとうございます。それでは、次お願いします。

(委員) はい。あしろこども園保護者会会長2年目なんですけれども、まだちょっと、幼稚園、保育園の内容っていうのはまだ分かってないんですが、プロジェクト⑤の子育て支援ということで、待機児童ゼロというところは本当にありがたいことだなと思っておりますし、子どもを預けられるということは、親もちゃんと働けるという環境にあるというところで、本当にありがたいと思っております。

でもそういう中で、私たち親が、この八幡平市で子どもを働かせてもいいのかっていうのも、なんでしょう、考えている親は結構いっぱいいると思います。というのも、やはり首都圏等に出ると生活基盤というか、給与面で高額というところでは、かなりそこは八幡平市で生活をしていくための環境というのは、親もですけども、市全体で考えていかないといけないのかなというのは、実感しているところでございます。

あと私がちょっと気になった点としては、教育ではなくて花輪線の問題なんですけども、花輪線の利用者数が減っているというところで、バスの方も減っているとは思いますが、そういう中で、まず利用者は基本学生もしくは通勤というところではあると思うんですけども、その通学に関して、安代地区の学生さんは朝1番の速い汽車に乗らないといけないんですけども、それが大変だからといって、その家族ごと滝沢なり盛岡市に引っ越すっていうのが現状起きているところでありますので、そうなりますと、市からいなくなる。また拠点が盛岡となると、その就職にしても生活基盤というのは、その田舎からちょっと都会のところでは生活に慣れてしまうとまた首都圏っていう、その段階が、そこから地域に戻ってくるのは難しいのかなというのは、感じているところでありますし、あとはその観光客がその八幡平市に花輪線を利用するにあたって大更駅から連絡線のバスというのも、1時間ないし2時間待ったりっていうところでは、その花輪線を利用する価値というものがどうなんだろうなというところで、その1時間の待ち時間をいかにその八幡平市の魅力を、観光をでき

るかっていうところがないと…便利な世の中になっていますので、その不便さを逆に、なんでしょう、考え方を反転してですね、もっと八幡平市の魅力を体験というか、観光していただけるように、何か施策がないのかなというところが、ちょっと感じてあるところではあります。以上になります。

(会長) ありがとうございます。運転できない交通弱者対策をどうするかって、まあそれを逆手にとっていろんなことをやっていくことも含めて、大切な話だと思います。ありがとうございます。それでは次お願いいたします。

(委員) はい。大更小学校のPTA会長をしております。小学校のところで関係する内容として、出生数が去年87人だったということで、6年後小学校の人数に反映される際に、ちょっともう差し迫った6年後なので、その時に、学年、各小学校、クラス統合だったりっていうことが、非常に心配していることと、あとコロナに関しては本当に活動が制限されていまして、夏休みのプールを開いた小学校が少ない。実際大更小学校はコロナ感染症対策で、夏休みのプール日がなくなってしまうたりってというのは3年ぐらい続いているので、もう今の1年生から3年生ぐらいまで、夏休みにプール行ったことない子がほとんどなんです。そういう現状、少しお知らせです。で、私あの保育園でも働いておりまして、女性が多く働く職場で、確かに出会いがないということで。ただ最近聞いていると、交流する場がない、地元の方とも知り合う機会がないので、例えば、市内の企業さんとかが各地区でやっているようなバレー大会とか、ああいうのにチームで参加してもいいのかなとか、そういうので、参加することで何か交流が生まれないかなと、お話聞いていて思いました。

あとですね、子育てに関してなんですが、保育園でみても小学校みても、結婚されてお子さんお持ちの方、今かなり兄弟を持っているように思います。なので、出生率のところ、実際保育料とか、滝沢市さん盛岡市さんと比べたら八幡平市さん断然安いので、引っ越してきた方とかはびっくりするぐらいなので、そこはアピールするところでもありますし、兄弟2人3人持っている、結構最近では4人5人も多いので、逆に言うと結婚されていない、その前の段階、そこの方の方がどうしたらいいのか…私も若い先生たちになんともしゃべりようがないので難しいですが、そういう機会をうまく作れる方法があればいいんじゃないかなという風に思いました。以上です。

(会長) ありがとうございます。子どもの数がやっぱり100人切ってしまうと、学校の存続問題になってくるので、非常に大きな問題で、そういうことをちゃんと見据えて、長期的にやっていかなきゃいけない。特に女性が交流する場がないというのは、先ほど、いろんな出会いの話もありましたが、複数企業で何か考えなきゃいけない。それから保育料のPR、やはり住みやすいんで、住みやすいっていうことをもっとわかってもらおうと。別のまちに行っても、八幡平市住みやすいのに、滝沢市に家を建ててしまった娘さんがいるとか、そんな

話もありますので、そこら辺どうしていきのかってすごく大きな話だと思います。ありがとうございました。じゃあ、次お願いいたします。

(委員) 唯一、市に1校の高校の、やはりその人数がどうしても少ないっていうのもあるんですけれども。松尾中学校なんですけれども、先週、授業の一環として八幡平市の中の農業体験とそれから職場体験というのを毎年やっております、子どもたちをそういうところに送ったりすると、普段見ているところが、やっぱりこう違うっていうか、実際に体験したのと違うっていうので、結構子どもたちが生き生きとした感じでやっているなっていう風に見受けられます。私も農業の方で受け入れしたんですけれども、今どうしてもこう携帯とかそういうので情報ばかりであれだったんですけど、実際にやると違うっていうので、結構子どもたちから、もうすごい、我々が思っていた以上の質問とかも来てびっくりすることもあるんですけれども。せっかくなんで、市に1校しかない高校っていうのもあるので、逆にそういうのも八幡平市のアピールとして取り入れるってなれば、八幡平市の高校に行くということやっているよ、みたいな感じのが広まれば、人数等も増えてきて、ある程度いい方向に向かってくるのではないのかなっていう風に思います。

もう1つなんですけれども、この農業部門のところで、私実際に家で農業やっているんですけれども、やはり後継者不足っていうのもあるんですけれども、私も実は後継者なんですけれども、なかなかこの後継者に対する支援策っていうのが、やっぱり少ないのかなっていう風にちょっと思うところもあります。新規就農者っていうと、結構いろんな支援があるんですけれども、やはり後継者ってなると、色々話を聞くだけどなかなかやっぱりそういうのに対してはないっていう意見等が多いので、逆にそういうその、後継者に対する色々そういうのがあれば、後継者不足とかっていうのも改善されていくのではないのかなっていう風に思います。以上です。

(会長) はい、ありがとうございました。農業体験、それから平舘高校のPRだったり、そうなんですよね…新規就農者とか、企業立地には支援策あるんですけれども、従前の企業だったり、従前の農家であったり、みんな行政で捨ててしまって、当然あるもんだっていう意識になっちゃうんですよね、それもすごく大事だなと思いました。ありがとうございました。では副会長お願いします。

(副会長) 1つはですね、私県立大に勤めているんですけど、県立大はですね、岩大さんと違ってマイカー通学が全面的にOKなので。入学手続きを行ってですね、近隣のその不動産屋さんみんな大学に来て、新入生に対してアパートの勧誘をやるわけですよ。で、ここにぜひ八幡平の皆さんもいらしていただいでですね。鹿角街道のバイパス、一本木で止まっちゃっていますけど、もう間もなく、県大の交差点のすぐ目の前まで一気に着けるようになるので、そうすると片道30分あればこの市役所から県立大まで行けるので、ぜひ若者を勧誘

していただきたいと思います。本当にあの、当事者の方には気の毒なんですけれども、開校してからもう20年も経ちますので、慌てて作ったアパート物件の老朽化もかなり進みますし、環境も決してよろしくない。ぜひぜひ、積極的に若者たちの定住を図っていただければという風に感じました。あと他にもたくさんたくさんあるんですが、時間もありません。はい、以上です。

(会長) はい、ありがとうございます。いっぱいご意見等いただいたんですけど、ちょっと2点に絞ってですね、市の方から回答いただきたいと思います。1つはハロウインターナショナル校との連携でどう事業効果を見ているのかっていうところと、それからやはり女性の出生率それから女性の回帰率をどうやっていくかという女性問題、就業問題その2点について事務局の方から回答いただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

(企画財政課長) はい。私の方から、ハロウ校との連携協定について、若干情報提供させていただきます。ハロウ校との連携協定につきましては、市とハロウ校、そして県とハロウ校ということで、それぞれ連携協定を8月1日に合同でハロウ校において協定をいたしております。連携項目としては、大きく4項目ということで、様々な取り組みが網羅できるようにした、大まかな連携協定ということで、協定を締結させていただいております。その中で、詳細については前々から何回か打ち合わせしてきたんですが、実際ハロウ校については開校して担当の先生が決まるということで、その担当の先生が決まったら、詳細について打ち合わせしましょうということにしてございますので、今後、詳細について打ち合わせの日程を今詰めている状況でございます。ただ、新聞報道でもございますけれども、前々からハロウ校については、4つについてはやりたいという協定というか、地域との交流をしたいということで伺っております。1つはですね、スキーの交流をしたいということで、新聞報道でもございますが、スキーはアルペンに特化しておりますけれども、ハロウ校とイギリスのハロウ校の本校と、市内もしくは県内の小中学生を対象にした、どういう形になるか…まあスキー大会と言っていますけれども、そういう大会をやりたいという風な意向を持っている、3月にはやりたいということでございますので、それについても今後詰めていくということにしてございますし、あと、高齢者施設に興味がございますようなので、高齢者施設、福祉施設と交流をしたいということで、そこがどの施設になるのかということも今後詰めていきたいなと思ってございます。実際に行って、高齢者なりと交流したいという風な意向を持っているようでございます。あともう1つの交流といたしましては、地域の伝統芸能について興味を持っているということでございますので、例えば市内でありますと、漆とか紫根染めとかそういう伝統芸能、職人さんたちと交流したいという風なものを持っているようでございます。あともう1つはオープンスクールということで、市内の小学校中学校の生徒と、様々な交流をしていきたいというようなことで、今年度につきましては半年しかないわけなんですけど、その4つについては交流を具体的に進めていきたいというような意向があり

ますので、それらについて当面進めていきたいなという思いでございます。以上でございます。

(会長) はい、ありがとうございました。スキー交流、高齢者施設それからあとは伝統、文化、芸術ですね。それからオープンスクール。ありがとうございます。女性の問題は何か答えられてきて非常に難しいなと思いますけれども、先ほど委員さんの方からもそこら辺の分析はどうかって出ましたけど、何か押さえていますか。市長さんお願いします。

(市長) まずはハロウの効果の件、連携協定の件で具体的なお話をさせていただきましたが、やはり何ととってもですね、ハロウがこの八幡平市に建設されたというようなことで、八幡平市の知名度そしてイメージのアップには相当に効果があるんじゃないかなと。私も昨日盛岡で会議があったんですが、その前に、昼食べている時の全国放送での番組にも取り上げられておりましたし、その話で持ちきりになります。そういった効果というのは非常に大きいものがあるわけでありまして、市としてもそれをですね、しっかりと情報発信していくことが大事なのかなという風に思っています。それからあと、何ととってもハロウの生徒たちと市の子どもたちの交流は、これはもう非常に大きな効果があると思います。最終的には900人を超える子どもたちが全世界からやって来るわけでありまして、留学…ネットの書き込みとかには留学でいいんじゃないかみたいな話もあるんですけど、1つの国だけからじゃなくて、全世界から来るわけでありまして、ここの学校で、いろんな国の子どもたちと交流することによって、それぞれのいろんな国の文化とかに触れると、非常に大きなメリットがあるという風に思っています。あとはやはりなんといっても、経済効果も大きいわけでありまして。教職員の方々も4、50名ほど最終的にやってくるということで、そこに住まわれるわけでありまして。そしてあと財政の話で申し訳ないですが、固定資産税もですね、入ってまいりますし、そしてあとはですね、そのハロウの子どもたちが卒業していった後に、この八幡平市で暮らしたという非常に大きいものがあると思います。その子どもたちが、世界にですね、八幡平市を発信していただける、これも、長い目で見れば非常に大きな効果がある、そういったことで、様々な効果が期待できるということでございます。

それから女性の件に関してですが、私もかつてこの地方創生の担当をしていた時期がありました。第1期の人口ビジョンあるいは総合戦略を策定したのがもう7年以上も前になるわけですが、その時点までは、男性も女性も、若い方々の転出数というのはほとんど一緒だったんですけども、7年ぐらい前から、全国的な傾向で、うちもそうなんですけど、女性の転出数の割合、人数が男性に比べてすごく増えてきました。このことについての分析は、おっしゃられた通りできていないのが現状でありまして、国においても、県においても、あるいは東京は逆に女性の流入が増えているわけですが、そのいわゆる客観的な分析というのはできてないという風に思っています。あの、主観的には、いろんな話がありますけれども、それが、実態に合っているかどうかというのは分からないわけでありまして、大学卒業し

た後に、女性が県外に転出する割合の方が多いというお話がありました。私も、女性の転出先をちょっと分析してみたんですけども、去年1年間の市内からの転出者が約600人ありますが、そのうち、滝沢、盛岡への転出が300を超えているんですね。で、県外に転出されている方は200人ぐらい。圧倒的に広域管内、この広域市町村の中での移動があって、通学、通勤するその利便性というか、そういったのが、昔よりもちょっとやっぱり不便になっているものなのか、あるいはまた、どうしても若い方々は親の近く、あるいは県内にはいたいけれども、その住む条件としては八幡平市は合わないのか。滝沢は本当に若い人たちが家を建てているわけでありまして、35年で3,000万借りると、1か月の返済8万以下でローン組めるんですね。そういうことで、ここの市内のアパートでも6万とかしますので、金銭面考えた時に、滝沢に月々8万円以下で家を建てられるという環境が昔にはなかった、そういう状況も生まれてくる。いろんな環境はあったかな。あの、そういった意味で、リスクがあるということを考えれば、単純に、東京とかにですね、憧れて出て行ったんじゃないかっていう一言で済ませられない、やはり身近な問題として、盛岡滝沢に通勤通学する人たちにどうやってこの地に住んでもらうのか、ここは喫緊の課題でもあります。花輪線の赤字の話です、新聞で取り上げられたわけでありまして、あの花輪線が、盛岡を起点にして大館まで通じる1本の路線でありますけれども、新聞に公表されたのは荒屋新町までの分と、荒屋新町からそれ以降の分で、赤字の額が掲載されました。なぜそういう風に2つに分けてその掲載をしなきゃいけないのかなというところを私もJRの方からも聞きましたけれども、意図的ではないわけではありますけれども、実態としてそういうことだということでお伝えしたかったということでもあります。ただ、受け止める方にすれば、JRを、秋田まで繋がっているわけでありまして、分断する、例えばここまで止めるとかですね、そういったような憶測も出てくるわけでありまして、そういうのはどうなのかなってということでもあります。いずれ、連携してですね、この問題には取り組んでいくこととして、各市長さんたちと話は済んでいましたし、岩手県と秋田県も一緒になって、この問題に取り組んでいきましょう。そのグループとしてはですね、廃止という話ではなくて、花輪線利用促進協議会というのがありますので、その協議会の中でいかにしてその乗降客を増やしていくか、まずはそこから始めませんか。JRさんのスタンスとしては、やはりあの、先ほどの通勤通学の利便性とかあったんですけども、最終8時40分が今8時になっちゃったんで、そうやって繰り上げられたことによって、高校生でもクラブしてから帰る、8時っていうと結構もう間に合わないってことで好摩まで来られて、好摩まで送り迎えしている人がさらに増えてしまいました。そういう利便性というかですね、花輪線は、本数も減る、時間も繰り上げられる、そういったことで利用者数が減っているのが事実なのに、なぜそこにテコ入れしないでただただその赤字の話だけ我々に振ってくるのかというようなことでは、なかなか話が、その関係性が、いかに持っていくか難しいものがあるという風に思っています。ですから、我々としても調べたり、JRとしても利用者を増やす、そういう考え方で一緒に協議に臨んでもらいたいというようなこと、これを強く訴えていきたいという風に今は考え

ています。

(会長) ありがとうございます。最後まとめていただきまして。今日は本当は11時ぐらいに終わりかなと思ったんですが、委員の皆様と私、想定以外にですね、活発にご発言いただきまして、本当にありがとうございました。

まだまだ事務局からのいろんな回答がしたいっていうのもあると思いますし、委員の方々からはどんどん色々聞きたいのだと思います。この会議の中だけではなくて、またこれからいろんな形で、この会を契機としてですね、いろんな情報や意見を出していただければありがたいなという風に思います。最後に、やはりハロウインターナショナルスクール、ハロウ校のあの立地というのがすごく、これからの八幡平市の将来をどう左右するかというのはすごく大きいわけで、これはぜひ皆様方も注目していただきながら、ぜひ岩手日報さんの新聞に取り上げていただく。それ以外も色々ありました。盛岡広域振興局さん、岩手県さんには、女性の活躍の場、それを盛岡広域を全体としてどのように留めていくのかというところ。それから、先ほど言いました通り八幡平から盛岡滝沢に行く。でも、盛岡滝沢はその中継地として、東京に送り込んでいる。東京に集まっている、転入者のもう過半が若い女性なんですよ。男性が上回っている地域はほとんどなくて、ちょっと古いデータですけども、第1位が八戸、第2位は盛岡、第3位が仙台市という形で、東北が若い女性を東京に送り込んでいる、それは事実のようなので、それをどのように全体として留めていくかというところは、ぜひこれからまた議論を進めていただけたらありがたいなという風に思っております。こんなところで、4の議事を終わりたいと思います。4の議事の(2)のその他ですけども、皆様方何かございますでしょうか。

はい。それでは、5のその他というところですけど、事務局の方から。

5 その他

(企画財政課長) 会長、どうもありがとうございました。5のその他でございますが、事務局の方からは特にございません。皆様方から何かございますでしょうか。はい、ないようですので、長時間大変ありがとうございました。貴重なご意見いただきまして、これから参考にしたいと思っております。

6 閉会

(企画財政課長) 以上をもちまして、令和4年度第1回八幡平市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了いたします。本日は大変ご苦勞様でございました。